

令和元年度第1回 流山市環境審議会 議事要旨

日 時： 令和元年11月13日（水）15時00分～16時30分

場 所： 流山市役所第1庁舎3階 庁議室

出席委員：

朽津和幸委員、佐藤秀樹委員、須賀武司委員、新保國弘委員、和田登志子委員、横田輝雄委員、井上菊夫委員、高橋信行委員、今井泰彦委員

事務局：

田中環境部長、大島環境部次長兼環境政策課長、遠藤環境政策課長補佐、阿部環境政策課長補佐兼環境政策係長、羽下環境保全係長、房野主査、関根主任主事

傍聴者：なし

議 題：

- (ア) 会長、副会長の選出について
- (イ) 本市の環境行政について
- (ウ) 今後の審議会の予定について
- (エ) その他

配 布 資 料：

- 資料1 環境審議会委員名簿
- 資料2 第2次流山市環境基本計画
- 資料3 令和元年版流山市環境白書

発言者	要旨
(議題ア)	会長、副会長の選出について
	会長は新保國弘委員、副会長は赤坂郁美委員に決定した。
(議題イ)	本市の環境行政について
事務局	本市の環境行政について説明。(「環境基本計画」の位置づけ、「地球温暖化対策実行計画」及び「生物多様性ながれやま戦略」の進捗、市内河川の水質等について。) 続いて、諮問を予定する案件について説明。
新保会長	事務局から説明があったが、意見や質問はあるか。
朽津委員	流山市がエコアクション21を止めた理由は何か。
事務局	本市は平成21年度にエコアクション21を取得し、10年間の取り組みにより職員への考え方が浸透したためである。さらに、エコアクション21の基本路線は抑えたいうえで、流山市地球温暖化対策実行計画(事務事業編)をマネジメントできる形に変更した。
朽津委員	現在は独自の環境マネジメントシステムを運用しているということだが、エコアクション21との違いは何か。
事務局	エコアクション21と基本的な考え方は変わらないが、外部審査を受審しないことと、流山市地球温暖化対策実行計画(事務事業編)の進捗管理に特化しているという違いがある。
今井委員	エコアクション21はPDCAを回すために内部監査を設けている。独自システムに、内部監査に相当するものはあるのか？
事務局	環境政策系の職員が内部監査を行い、結果を環境活動レポートとして発行している。さらに、環境マネジメントシステムの進捗については、流山市環境マネジメントシステム外部委員に報告するという運用がある。
事務局	独自システムは、エコアクション21の要求事項を踏襲しており、内部監査は要求事項の1つであることから、独自システムに必要なものとして内部監査を取り組んでい

	<p>る。折しも明日（11月14日）に内部監査を予定している。</p>
今井委員	<p>市役所が排出する温室効果ガスの内訳として、廃棄物焼却の割合が大きいとあった。2017年度と2018年度を比較して、焼却量が800tしか増えていないにも関わらず、排出量が3000t-CO₂も増えた理由はなにか？</p> <p>また、焼却施設でサーマルリサイクルは行っているか？</p>
事務局	<p>焼却から発生する温室効果ガスの多くは、廃プラスチックの焼却に基づくものである。廃プラスチックの排出量は、2018年は2017年より1,000t上がっており、排出係数（2,765）をかけると温室効果ガスの排出量は3,000 t-CO₂程度上がってしまう。</p> <p>サーマルリサイクルについては、発電はしており焼却施設内で活用しているが、売電するほどの能力はなく、完全なるサーマルリサイクルとはなっていない。</p>
井上委員	<p>人口が増加する中で排出量を減らすとなると、焼却の近代化等の対策が必要となると思われるが、流山市としては、パーヘッド（一人当たり）で下げればよいと考えるのか、それとも絶対値で下げていきたいのか。</p>
田中部長	<p>昨年度制定した流山市一般廃棄物処理基本計画において、人口が増えてもゴミを増やさないという目標を掲げており、一人当たりの排出量を下げるという厳しい目標設定をしている。達成に向けた取組としては、リサイクルの充実を重点に置いており、分別の徹底について市民を啓発していく。</p> <p>さらに、焼却施設は設立から15年経過しており、長寿命化に向けて機械の更新が必要となっていることから、更新の際には、温室効果ガスの排出量削減という点も重視したい。</p>
横田委員	<p>分別に関して、資源をリサイクル業者に渡した後に、実際にどれだけリサイクルされているのか追跡しているか？</p>
田中部長	<p>ビン、缶、ペットボトルについては、リサイクル事業者</p>

	<p>に渡ったものは基本的にはリサイクルされていると考えている。</p>
横田委員	<p>ペットボトルについては、キャップ、ラベル、本体の樹脂の内容が異なるため分別、洗浄、チップ化する必要があるが、コストがかかる。経済的な観念で、果たしてどこまでリサイクルされているかどうか疑問である。一度は追跡していただきたい。</p>
和田（登）委員	<p>市役所事務事業から排出される温室効果ガスの削減目標を達成するためには、一般廃棄物の焼却量の削減が重要。そのためには、市民の協力を得なければならない。市民がゴミの問題について自覚し、行動できるように、市は現状と対策について市民に具体的に伝える必要があると思う</p>
高橋委員	<p>市域全体で二酸化炭素排出量を考えれば、廃棄物部門から10%程度削減する必要がある。このうち5%程度は、紙の資源化率を上げることで削減可能と考えられるが、残りの5%については工夫が必要だろう。</p> <p>話は変わるが、水質については、利根運河でBODが環境基準を超過している。この地域は浄化槽の区域となっているが、周辺住民に対し環境指標を超過している事実を周知する必要があるのではないか。</p>
田中部長	<p>利根運河周辺に限っては、単独浄化槽を合併浄化槽に変えた場合は、通常の補助にプラスして15万円を補助し、合併浄化槽に変えて頂けるよう働きかけている。このこともあり、合併浄化槽への変更実績は増えている。</p>
高橋委員	<p>水質や他の環境問題について、近隣市との連携はとれているか？</p>
事務局	<p>利根運河流域については、国土交通省を中心とした利根運河協議会において情報交換を行っている。また、手賀沼流域である大堀川流域については、手賀沼水環境保全協議会において我孫子市、柏市、松戸市、鎌ヶ谷市、印西市、白井市と連携している。さらに騒音等については、個別案件ごとに関係する市が連携して問題解決を図ることもあ</p>

	る。
(議題ウ) 今後の審議会の予定について	
事務局	地球温暖化対策実行計画(事務事業編)が令和2年度で計画期間を満了し、改定の必要があるため、市長が諮問予定である。3月下旬に第2回環境審議会で諮問を行い、令和2年度中に答申いただくスケジュールを進めたい。
新保会長	本日の議事は終了したので本日の審議会は以上とする。
閉会	